

2020年度 事業報告書

2020年6月1日から2021年5月31日まで

特定非営利活動法人 チャリティーサンタ

1 事業の成果

2020年度を振り返って

2020年は、新型コロナウイルスの影響を受ける一年となりました。

法人の主格事業であるクリスマスのサンタクロース訪問事業についても、4月から半年をかけて団体内で協議と検討を重ね、「この社会情勢下であるからこそ、思い出不足になりがちな子どもたちに体験を届ける必要がある」という結論から、感染対策を徹底した上での事業実施をすることになりました。

また、夏に毎年実施をしていた「福島生き×生きキッズ」（東北支援の一環で、福島の子どもの自然体験を応援する夏休み事業）を中止するなど、一部事業においては断念したものもありました。

初めての「コロナ禍でのクリスマス」は、活動内容に沿った独自の感染対策もルール化し、無事に活動を終えることができました。一方で、札幌・広島・香川の3支部では、自治体や大学などからの発令により活動を大幅に縮小する結果となりました。

また、感染対策の一貫で行った「利用会場の定員50%」の新ルールにより募集数の制限など見えない弊害も生まれてきました。さらにボランティア希望者にも所属企業や大学などから自粛を促される等の多くの制限もあり、昨年から約400人減少。それでも全国で1,294人が集まりました。サンタボランティア人数の減少に伴い、直接訪問する家庭も少なくなっていました。

最終的に、支部での家庭へ直接訪問する活動においては、全国27都道府県で1,103家庭の子ども達へプレゼントと思い出を届けることができました。その内、困難を抱える410家庭です。

一方で、全国の困窮家庭支援団体や子ども食堂・フードバンク団体など150団体以上と連携し、10,000人以上の子どもたちへプレゼント（絵本・児童書）を届ける取組も大きく展開できました。これにより間接的に多くの子どもたちへ届けられ、「クリスマスが素晴らしい日になった！」と数々の喜びの声が届きました。

また、「クリスマス」という社会的認知度が高く、経済的格差が現れやすい行事を題材とすることで、企業などの社会的資源を持つ存在が参画しやすい仕組みをつくり、社会全体で「経済的困難」への理解を深め、支え合う気運を醸成する仕組みをつくる活動を行っています。直近の11-12月にはテレビ・新聞・ラジオ・人気YouTubeチャンネルなど100近いメディアに取り上げられました。

（1）企業連携～ブックサンタの寄付冊数が2万冊を突破～

当法人の社会参加を促す仕組みで、特に大きく成果をあげているのは「ブックサンタ」。こちらは書店などで「自分で選んだ本を困窮世帯にサンタクロースを介してプレゼントできる（選ぶ→購入→その場で寄付）」仕組み。「寄付よりは能動的に、ボランティアよりは気軽に参加できる仕組

み」として年々支援者が増え、昨年は36都道府県、307書店の協力のもと、オンライン書店やクラウドファンディングも含めて、11～12月の間に2万冊（2～3千万円相当）を超える寄付が集まりました。

現在は自団体の活動を通じて家庭にプレゼントする他、困窮世帯を支援する他の団体とも連携し、必要な家庭に本を届けることで、「笑顔を作り、思い出を残すこと」を大切にしています。

また企業との取組では、新たにアマゾンジャパンやロクシタンジャパンなどとの連携などを行い、困窮家庭への支援活動を行いました。企業としても困窮家庭への支援に関心があるものの、家庭にどうアプローチすればいいかわからないという声をいただくことも増えており、家庭への支援の架け橋としての役割を強めています。

（２）行政との協働や、困窮家庭の支援について

岡山市とともに協働事業を実施。困難な家庭に対しての体験支援を行いました。クリスマスに繋がった家庭に対し、継続的な思い出の支援を行うことで、困窮世帯の子どもたちの自己肯定感を向上させるとともに、家庭に不要な罪悪感が残らないように、企業や団体等と連携し、体験事業を届ける活動を行いました。

2019年に岡山市と協働して行った市民協働ニーズ調査以降、事業を通じて当法人に繋がった困窮世帯に支援情報を届ける事業を行った際、家庭からの情報の必要性や喜びの声が多く集まりました。この先行事例を一つのきっかけにし、困窮家庭への情報配信支援を一般施策化され、ソーシャルインパクトに繋げることができました。情報配信支援事業は当団体が一緒にネットワークを務める「おかやま親子応援プロジェクト」で事業を請負、「おかやま親子応援メール」として、チャリティーサンタが困窮世帯への情報配信担当となり、週に1度程度、家庭への支援情報のメルマガ配信を行っています。

このメルマガでの半年後アンケートでは、未就学児だけ・小学生だけをお持ちのご家庭を抽出した際に体験支援のニーズが一番高く、思い出支援が幼少期の段階で家庭とつながる手段として有効であることを改めて強く感じています。

（３）困窮家庭のクリスマス実情調査

NPO法人チャリティーサンタでは、支援している家庭の中から「新型コロナによる収入減少があった子育て家庭（654世帯）」に対してクリスマスプレゼントに関する調査を実施しました。

その結果、新型コロナによる収入減少があった子育て家庭の3家庭に1軒は「クリスマスプレゼントを準備しない＆準備できない不安がある」との回答がありました。

クリスマスプレゼントの予算に関する設問では、12.9%が0円（準備しない、友人からの貰い物、団体からの支援品など）と回答。「予算の上限はなく子どもの欲しい物を選ぶ予定」は、わずか3.6%となりました。また、32.5%が予算2千円以内と答え、コロナ禍で「子どもたちのクリスマス格差」が拡大している様子が明らかとなりました。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
チャリティーイベントに関する企画運営事業	クリスマスイブにサンタクロースが訪問するチャリティー企画を運営実施	(準備) 通年 (本番) 12月24日 ※一部は事前実施	全国27都道府県	約400名	訪問家庭数：1,103軒 訪問児童数：2,666名 ※施設なども含む ボランティア数：1,294名 (内、厳しい環境の中にいる子どもへのサンタクロース訪問 対象となった子どもの数：1,001人/ 訪問家庭数：410軒) 連携団体を通して届けた困窮する子ども人数：約1万人
チャリティーグッズに関する企画運営事業	サンタクロースから手紙が届くチャリティーグッズ販売	(準備) 通年 (実施) 11月～12月	東京都	10名	購入人数：659名 (内、厳しい環境の中にいる子どもへ無償提供：522家庭)
チャリティーグッズに関する企画運営事業	ネパールで作ったフェルトマスコット販売	(準備) 通年 (実施) 11月～12月	東京都	3名	購入人数：10人 ※コロナ禍により個別依頼のみ販売対応
子どもの体験活動支援事業	困窮家庭への体験支援	通年	主に岡山県	約20名	子どもの参加家庭数：1,012家庭
子どもの体験活動支援事業	各地域で子どもの遊びや体験を促すイベントを実施	通年	神奈川県湘南地域、岡山県、盛岡県他	約50名	子どもの参加人数：約130名
スタディーツアー事業	実施なし	-	-	-	-
市民の社会参画の機会提供及び推進を図るための企画運営事業	ボランティア参加や社会参加を促すための講演会の開催等	通年	全国	3名	受講者：約200名
調査研究、情報収集、情報提供及び啓発事業	困窮家庭におけるクリスマス事業調査	11月～12月	全国	名	ルドルフ基金申し込み家庭(困窮世帯)：654名
調査研究、情報収集、情報提供及び啓発事業	岡山親子応援メールの運営	7月～5月	岡山市	3名	登録世帯(困窮世帯)：約2,000名

